課題対応取組み報告書

名称	西成区地域包括支援センター
提出日	令和6年6月20日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	2年目の実践～ケアマネつどいの場「ケアマネカフェ」～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	当圏域の居宅介護支援事業所数は突出して多い。しかしながら多くはケアマネジャーが1人か2人の小規模事業所である。事業所数が多いこともあり、そうした小規模事業所のケアマネジャーの多くは、交流や情報交換の機会があまり持てていなかった。地域ケア会議から見えてきた課題としては認知症や精神疾患、療育的な個人要因を持つケースが増加傾向にあることが上がっており、そうしたケースの多くは支援に多くの時間を要することも明らかである。 早期発見、早期支援のためにも多職種連携が求められるが、まずは個別支援の要となるケアマネジャーの横のつながりをつくり、情報交換や知識習得を通じた専門性の向上を図ることが必要と考えられる。	
対象	介護支援専門員、関係団体、専門職	
地域特性	国道26号線、地下鉄、私鉄と交通至便なエリアであり、他の地域に比べさまざまな世代が流入しマンションが多い。区役所、区民センター、郵便局本局のある地域であり、スーパー、医療機関なども徒歩圏内に点在し生活しやすい。 介護サービス事業所の数も多く、当圏域には区内142事業所中74か所の居宅介護支援事業者がある。	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが気軽に集まり、介護保険にとどまらない社会資源情報を知れる場を創出する。 ・ケアマネジャーのニーズ把握を行い、他専門職との連携を通じて新たな社会資源創出につなげる。 ・認知症支援を通じた地域住民連携を考える。 ・地域と介護保険事業所の顔の見える関係づくりを進める。 	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日と参加者数 令和4年度 2回開催 参加者 合計61名 令和5年度 11回開催 参加者 合計300名 ・テーマ 「オレンジチーム、にしなり認知症ケアパスについて」「害虫駆除について」「地域の集いの場にはどうやって行けばいいの?」「社会資源情報紹介」「在宅医療・介護連携相談支援室について」「アルコール依存症について」など 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者へのアンケートも取りながら、月ごとにテーマを設定した。 ・冒頭にゲストに短い話をしてもらい、その内容について参加者が各テーブルで自由に意見交換をし、そこにゲストも加わって気軽に質問できるように工夫した。 ・会場には、社会資源情報、ケアマネジャーの業務に役立つような資料を揃え、参加者が情報を持ち帰ることができた。 ・本取組みを通じて知り合い、つながりができる介護支援専門員もいた。 ・年度末のアンケートでは、「意見交換ができた」「顔見知りが増えてきた」「リフレッシュできた」などの評価が多数得られた。 	
今後の課題	参加者からは良い評価が得られているが、参加者が固定化しつつある。「テーマを見て参加するかどうか決めている」との意見もあり、より多くの介護支援専門員の参加が得られ、スキルアップにつながるよう、開催回数と内容を絞って開催していく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	ケアマネジャーが1人か2人の小規模事業所が多い中、ケアマネジャーの多様な悩みやニーズを把握し、ケアマネジャーの横のつながりづくり、介護保険にとどまらない社会資源情報等を提供し、専門性の向上を図る取り組みとして高く評価できる。	

課題対応取組み報告書

名称	玉出地域包括支援センター
提出日	令和6年6月20日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	「明日の元気は出会いから」～元気への一歩につながるまちづくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域の見守りや活動の担い手が高齢化し、役割を下りられる住民も増えているが、地域活動はコロナ前の活気を取り戻し、高齢者にとって、社会交流や人との繋がりが、心身の活力を取り戻すきっかけになるのかを実感した。 出会いをきっかけにして、今日明日という日々を元気に過ごしたいという前向きな気持ちを住民、専門職が手を携えていく大切さが見えてきた。	
対象	地域住民、ネットワーク委員や民生児童委員	
地域特性	南津守地区は工場跡地にファミリー向けの建売住宅が増えたこともあり、年少人口の増加もみられる。だが一部の市営住宅は低所得者、高齢者の転入が多く、地域との交流も希薄で、孤立化が目立つ。 千本地域は認知症と経済的課題を抱えた事例の増加がある。 玉出地区は交通至便でスーパー、商店も多く、活気のある地域である一方で、地域の利便性から他区から高齢者が転入するケースも数多く見られる。	
活動目標	地域活動への参加とそこで生まれる交流を通じて、住民の健康への意識、機能の維持向上に繋がる。 職員一人一人も住民にとって「良き出会いの人」となるための対応力向上を目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	玉出：国道26号線までのアクセスが難しい高齢者（玉出東地域住民）でも通いやすい百歳体操の場を創設した。 千本：成南ランチと共同で民生委員と地域課題抽出の会議を行う。ランチ独自事業をベースにリハビリ専門職の協力を得て、新たな健康づくりの場を創設した。 南津守：市営住宅の自治会長と包括、南津守ランチ、見守り相談室、生活支援コーディネーターが協力し、課題の抱えた世帯の早期発見と見守り体制について協議を行い、集会所の活用について意見交換を行った。また認知症強化型としても同じ活動テーマで企画を検討し、区民向けイベントとして百歳体操、eスポーツ、ポッチャなど西成区内で盛り上がりを見せている活動を紹介、体験の場や人との交流を持つことの大切さを伝えた講演会も行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	アクセスが難しい、社会資源の少ない地域に絞り込んだアプローチと、地元で知名度のある商店と地域活動に理解のある商店主の協力が奏効し、介護保険サービスの利用に拒否はあった利用者が定期的に通いの場に参加するようになった。 認知症啓発区民向けイベントでは、他の包括圏域の独自事業への問い合わせや参加者が増えるなど一定の成果が見られた。	
今後の課題	住民から「こんな場所が欲しい」「こういう活動がしたい」と自ら声を上げることができ、実現のための後方支援ができる体制やノウハウが包括にも必要である。 課題を抱えた個別事例に支援に時間を費やすだけでなく、まちづくりを意識した実践力を磨いていかなければならない。 特に区民向けイベントの企画においては、「健康づくり＝重度化防止・認知症予防」がより住民にも分かりやすい形で示していかなければならない。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日 (月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	人との繋がりや出会いを大切に、自治会、民生委員、ネットワーク委員など地域の住民からの声を聴き、アクセスが困難な世帯へも通いや交流の場を提供する等、「元気に過ごしたい」という前向きになるまちづくりに取り組んでおり高く評価できる。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区北西部地域包括支援センター
提出日	令和6年6月20日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	気配り・目配り・心配り 第3弾 (相談につながるやすい仕組みづくり)	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症、ひとり暮らし高齢者への支援、複合する課題を抱えた世帯への支援等、課題の内容はここ数年来、大きく変わっていない。課題が重篤してから介入するケースが多いことも変わりなく、なかなか早期介入、予防的介入には至れていない現状である。 日頃から何らかの形でつながりを持ち、いつでも気安く相談できるところを知っていることが大切で、多機関との連携、見守り機能の強化、認知症啓発と合わせ、地域包括支援センター (以下「包括」という) の機能周知を高齢者や地域関係機関のみならず幅広く行っていく必要があると考える。	
対象	地域住民	
地域特性	圏域5地域高齢化率 (2023年3月現在) 北津守 : 31.80% 梅南 : 32.61% 津守 : 45.02% 長橋 : 40.38% 松之宮 : 45.45% 北津守・津守地域は社会資源が少なく交通の便も悪い。しかし北津守には外国人世帯が多く移住、高齢化率の低下へとつながっている。長橋・梅南・松之宮は比較的スーパーや病院など社会資源も多く交通機関もある。5地域通じてひとり暮らし高齢者、あるいは高齢者のみの世帯が多く少子高齢化が顕著である。	
活動目標	前年度から継続して「地域、気配りさん、多機関」と連携しながら情報を共有、見守り機能を強化するとともに、ヤングケアラーなど課題が世代問わず複雑化するなか、誰もが気軽に相談できる身近な窓口となるよう、様々な世代への包括の機能周知に努める。	
活動内容 (具体的取組み)	・ゆるい見守り機能を持つ「気配りさん」については、更新中でおおよそ個人では220名、事業所店舗は60か所の登録がある。 ・地域行事等には積極的に参加して子育て世代の方々とも交流し、パンフレットの配布などで包括の機能周知に努めた。 ・総合相談窓口 (ランチ) と協働し、包括の業務についてわかりやすく劇仕立てにしたDVDを作成した。 ・法人の取り組みでもある「オレンジまつり」を開催、地域を巻き込み認知症クイズのスタンブリーを実施、幅広い世代への認知症理解についての啓発となった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・「気配りさん」を含む地域住民からの相談件数は増加している。日頃からの関係づくりが効果的であると考えられる。 ・地域行事も曜日を変更されるなど若い世代が参加できる設定に変化していく過渡期である。活発とまでは行かないが、若い世代とも交流できるようになりつつある。 ・包括の周知DVDは予告編も含め、誰が見ても「何をしているところか」が分かりやすく仕上がっていると思う。 ・オレンジまつりは地域住民にも定着しつつあり、関係者も含めボランティアや参加者として積極的に関わってもらえた。	
今後の課題	・「気配りさん」の登録を増やすことも大事だが、現に登録いただいている方々との交流も大切で方策を検討したい。 ・地域住民が安心して生活していくために、「知っている人しか知らない」包括が「身近な相談窓口」となるよう住民に幅広く知ってもらう必要がある。 ・個人へのアプローチもそれなりに効果はあるが、「生活施設への周知活動も効果的ではないか」と周知DVDやパンフレットの活用方法を検討中である。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日 (月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ゆるい見守り機能をもつ「気配りさん」等からの相談も増えており、若い世代とも地域行事で交流している。 今後、包括の周知DVDを活用する等、幅広い世代への周知、相談につながるやすい仕組みづくりを引き続き期待している。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区東部地域包括支援センター
提出日	令和6 年 6 月 11 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	気になる高齢者や世帯の支援 (地域ぐるみでの助け合い) と楽しみや期待の持てる取組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当圏域は、身寄りのないひとり暮らしの高齢者の相談が多く、認知症の相談の割合も高くなっている。また、複合的な課題を抱えた世帯の相談も増え、高齢者支援だけでは解決できない状況であった。 ・家族や飲み屋の店主による金銭搾取やライフラインの停止、家賃の滞納など生活、経済面における問題が顕在化している。 ・昨年同様、権利擁護の意識が低く複雑化してしまっていることもあり、成年後見人制度の活用の周知活動が必須と考えている。 	
対象	地域住民 (高齢者に限らず、介護の担い手なども対象とする)、専門職機関 (認知症初期集中支援チーム、生活支援コーディネーター、見守り相談室、区保健師、区精神保健福祉士、医介連携、障がい者基幹相談センター、総合相談窓口 (ランチ) 他)	
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関係が稀薄、キーパーソンがいない介入が困難な方も多い。 ・ひとり暮らしの高齢者が多く、生活保護受給率も高い。 ・地域の関係者の高齢化が進む中、世代間交流ができる地域もあり、「ポッチャ」交流も盛んとなっている。 	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と専門職とのつながりを深めることで「早期発見、早期介入」の実現及び互いに「顔が見える関係づくり」の構築を目指す。 	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 (高齢者に限らず、介護の担い手も含む) への認知症予防の視点を含む、成年後見制度の周知活動 ・高齢者が消費被害に合わないために「出張フリースクール」の地域別開催 ・圏域を超えた、「東部包括フリースクール」の定期継続開催 ・ポッチャ大会 (春、秋の年2回) の開催 ・「集いの場」として、喫茶「よってこ」の定期継続開催 ・担当圏域の民生委員定例会議やネットワーク委員会において、高齢者虐待や認知症の方の「早期発見、早期介入」についての働きかけ 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者が消費者被害に遭わないために」の「出張フリースクール」を2回開催。 ・「車いす体験会・街歩き編」を開催し、世代間交流にもつながり、地域を改めて知る機会になった。 ・「東部包括フリースクール」の利用者が増え、毎回25名以上の方が参加され活気あるものとなった。 ・「喫茶よってこ」も高齢者に限らず色々な世代が来て下さるようになり、毎回30名近い方に参加していただいている。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と専門職をつなぎ、困難なケースにも気づきの目を増やし「早期発見、早期介入」を心がけ、重篤化を防ぐ。 ・認知症になっても、安心して暮らせる地域を目指すためにも、権利擁護の視点の取組みの周知活動の展開を図る。 	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日 (月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	<p>「東部包括フリースクール」の利用者が増えており、「車いす体験会」での世代間交流や「喫茶よってこ」でも様々な世代が参加されている。</p> <p>地域ぐるみでの助け合いが出来るよう、今後も高齢者が楽しみを持てる取組みを引き続き期待している。</p>	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		